

はたちの夢

佐藤 みくさん

本日は、成人を迎えた私たちの門出に対し、このよう盛大な成人式を催していただき、誠にありがとうございます。また、町長さまをはじめ、ご来賓の皆さまよりご祝辞をいただき心より御礼申し上げます。

私達は本日より大人の仲間入りをいたしますが、自分を見失わずに若者らしく一日一日を大切にしながら、社会貢献できるような努力してまいります。そして、私たちの中学校卒業の日に起きた東日本大震災。どうなるか分からない日々が続



きました。が、一歩ずつ着実に復興に向かって進んでいると思えます。なによりあの時と同じ顔ぶれが、ここにそろえることができたことを、とてもうれしく思っております。

私は小学校4年生の時から、広野町みかんクラブのフットサル部に所属しておりますが、入部当初より人数が減ってしまっている状況です。私の夢は「サッカーのまち、広野町」と呼ばれていたころのように、サッカーを今よりもっと盛んにすることです。そしてそれ

最後に参りましたが、私たちの新しい門出を祝ってくださいました。ご来賓の皆さま、本日の式典開催にご尽力いただき

はたちの夢

木村 元哉さん

本日は、成人式を無事迎えることができた私たちのために、このような式典を開いてくださり、誠にありがとうございます。また、ただいまたくさんのお祝いや激励のお言葉をいただきました町長さまをはじめ、ご来賓の方々、さらにご臨席いただきました多くの皆さまに新成人を代表しまして心より感謝申し上げます。

東日本大震災から5年がたとうとしています。震災は、中学校の卒業式のすぐあとに起きました。私は、そのときも友達と一緒にいました。あの時、またここでみんなと肩を並べることができるとは思いませんでした。今では一人ひとりが20歳を迎え、それぞれの道を歩んでいます。

今日という日に、この場で再会できた同級生たち。みんなとは、保育園や幼稚園のころから小・中と、一

緒に過ごしました。今思えば、濃い日々だったと思います。そして、共に学生時代を過ごしたこの仲間たちから成長させられたのだと感じています。当時仲間たちと流した汗も涙も、糧となって私を支えてくれています。



そんな環境ではありませんが、やはり食生活が乱れるなど緩みもあります。そう思うと、家族というのは感謝してもしきれない存在です。曲がりなりにもこうして独り立ちができています。家族がいたからです。

これから歩む人生において、20歳は通過点だと思えます。節目としては大きな意味を持ちますが、責任はこれまでどおり、しっかり果たすことが大事ではないでしょうか。20歳の節目は、そのことを確認する機会だと思ふのです。これまで、たくさん経験し、失敗もしましたが、家族や周りの人に支えられて、日々成長を続けてきました。これから、その経験をもち、他者を守り支えることのできる存在になる必要があります。一人前になるには、まだまだ程遠いかも知れませんが、しかし、人生という自

分自身の答えを探し続けるべく、日々前進します。最後に、私たちは震災という困難に遭いました。震災のことに触れたくない日もありました。ですが、自らが明るい道を切り開かなければならないという想いのもと、震災に向き合ってきました。日々刻々と変わる復興の今についていくには、自分自身が動かなければいけません。私がこれまでに本日の復興だと感じたことは、あの時から聞こえなかった、子

謝辞

田中 千亜紀さん

本日は私たちの成人という人生の節目にあたり、このような盛大な式典を挙げていただき誠にありがとうございます。新成人一同、心から御礼申し上げます。

また、お祝いや激励のお言葉をいただきました町長さまはじめご来賓の方々、ご出席いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。新成人としての喜びとこれからの将来に大きな希望を抱くとともに、成人としての責任の重大さを痛感しております。

私たち成人の中には、さらなる学びを求め学業に励む者もおれば、社会で労働に励む者もごいます。それぞれが自分の望む将来に向け様々な努力を積んでおります。一人ひとりの置かれた状況は違いますが、今日から

を胸に、これから社会人として、大人としての自覚をしっかりともち、社会生活を営んでまいります。ただ、社会生活とは簡単なことではないと思えます。困難にぶつかりくじけるようなことがありません。皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



成人の一員として皆さま方のお仲間入りさせていただくことになりました。至らぬことの多い私たちですが、皆さまから頂きました意義深い教訓

ました関係者の皆さまに心より御礼、感謝を申し上げます。成人代表の謝辞といたします。皆さま、本日は誠にありがとうございました。